



他団体紹介

東京都 Pet Lovers Meeting

ペットとの死別の悲しみのための

自助グループ

Pet Lovers Meeting代表 梶原 葉月

真摯な活動を長年続けていらつしやる「生と死を考える会」の会報に、私たちの小さな活動を紹介させていただく機会をいただき光栄に存じます。

Pet Lovers Meeting (ペットラヴァーズ・ミーティング以下PLM)は、ペット(コンパニオン・アニマル)をじくした家族のためのセルフヘルプ・グループで、二〇〇〇年から活動しています。ペットを家族の一員と感じ、「飼う」というより、共に暮らしてきた人たちが、ペットの死によつて深い悲嘆を感じるのには珍しいことではないのです。この悲嘆を「ペットロス」と呼びますが、二十年以上前には「ペットロス症候群」とマスクミ等で取り上げられ、物珍しいもの、治療すべきもののように扱われた時期もありました。しかし、私たちは、ペットロスは愛する存在を失った時、当然起こる心の反応であるという立場から、お互いの経験を共有する場を提供してきました。今で

はペットロスに対する社会の理解も進み、動物看護師大学の中には、「ペットロス論」の授業を開講している大学もあります。

PLMを始めたメンバーは、ペットががんの告知を受け、抗がん剤治療のために獣医大学の大学病院に通っていた時に知り合いました。待合室でお互いを支え合い、励ましあつて過ごした時間は私たちを強く結びつけ、ペットが亡くなったあと、この支え合いを続けたい、広げたい、と思つたのが任意団体設立のきっかけです。当時、グリーンフケアとは何か、知らない人同士が集まるミーティングをどう進めたいのか、わからないことばかりで、どこにでも出かけて行って教える請いました。実は、その頃、貴会の分かち合いの会に、勉強のため参加させていただいたことがありました。まだペットロスという言葉もあまり知られていない頃でしたが、事情をお話して、快くご了承いただきました。その時の経験が、今もミーティングの運営にとても役立っています。

前置きが長くなりましたが、現任PLMの行なっている活動は、①ミーティング、②ペットロスホットライン、③獣医学教育における模擬クライアント活動、の三つです。

①ミーティング(二〇〇〇年〜)

三ヶ月に一回、東京都豊島区池袋の自由学園明口館の教室で開催している会です。次回の二〇二二年九月が第八七回となります。毎回一〇人から十五人ほどが集まり(今はコロナ禍の影響で少し少なめですが)、ペットとの死別の経験について今の気持ちを自由に話します。もちろん、話したくない方は、聴くだけでも構いません。互いに批判しない、悲しみを比べない、聞いたことを他で話さないというルールで、もしお話が、動物福祉全般などにあまりに外れて行くようなことがあれば、進行役が話題を戻させていただきます。時間も午後一時から三時までの三時間で、希望の方がいれば、近くのカフェで一時間半程度の二次会を開いています。

②ペットロスホットライン(二〇〇三年〜)

二〇〇三年十一月に、電話で今のお気持ちを聴くペットロスホットラインを始めました。毎週土曜日午後一時から四時まで、ペットロス経験のあるボランティアが電話を受けています。通話料はかけた方の負担ですが、相談料は無料です。電話を受けるボランティアは、イギリスで同様の活動をしているNGO、The Society for Companion Animal Studies (SCAS) が電話ボランティア養成用に作成した教材を学び、初歩的な傾聴の訓練を受けています。二〇二二年七月二日までに

一五七二件のお電話を受けました。
ペットロスホットライン

電話番号 ○三(五九五四)○三五五
毎週土曜日午後一時から四時

③ 獣医学教育における模擬クライアント活動
(二〇〇五年)

ミーティングやホットラインでペットロスの経験を
お聴きしていると、動物医療に不信感、不満を
持っている方が多いことがわかりました。看取り
に納得がいかないと、悲しみはより長く、深くな
ります。特に、動物医療は近年ますます高度先進
化しており、家族(飼い主)はどこまでの治療を
するか、しないのか、難しい選択を迫られます。
また、動物には安楽死が認められていますが、最
後にその選択をしたにせよ、しなかったにせよ、
あれでよかったのかと家族が自責に念にかられる
ことは本当に多いのです。獣医師とのよいコミュ
ニケーションと信頼関係は、ペットロスの経験を
大きく左右します。二〇〇五年当時、獣医大学で
はコミュニケーションに関する教育はほとんど行
われていませんでした。私たちは、家族の気持ち
をわかってくれる獣医師を増やしたいと考え、日
本獣医生命科学大学の故鷺巣月美教授と協力し、
模擬クライアント(動物の飼い主役)を演じるボ
ランティア活動を始めました。学生が獣医師役、
ボランティアがクライアントとして動物の症状を

話すという、より臨床の現場に近い形でコミュニ
ケーションを学ぶ授業を行っています。現在では、
動物医療面接のコミュニケーション教育は、全国
の獣医大学で必修となっています。

模擬クライアントボランティアの概要

[https://www.facebook.com/events/
1048816599317124/?ref=newsfeed](https://www.facebook.com/events/1048816599317124/?ref=newsfeed)

公に活動しているペットロスのためのセルフ
ヘルプ・グループは、知るところ全国で私たちP
LMだけのようです。コロナ禍以前には、ミーティ
ングに参加するため地方から飛行機でいらつしや
る方もいました。できれば、PLMのようなボラ
ンティアの会が、大きな街に一つくらいはあつた
らいいのに、というのが私たちの願いです。

いろいろな方に教えを請い、支えていただいたお
かげで、二十二年間、小さな活動を続けてくるこ
とができました。ただ、当初一〇人以上いた中心
メンバーも、自身やペットの高齢化などで減って
いき、いまは五人ほどになっています。今後、メ
ンバーができることに合わせて活動をどう変化さ
せていくか、考える時期にきています。

それにしても、「生と死を考える会」のため
まぬ活動は、PLMの道をいつも照らししてくだ
さっていると感じています。分かち合いの会に参
加させていただいてから二〇年以上経ち、またこ

のようにご縁をいただいたことに改めてお礼を申
上げます。

Pet Lovers Meetingホームページ

[https://www.ddtune.com/plm/
フェイスブック](https://www.ddtune.com/plm/)

[https://www.facebook.com/Pet-Lovers-
Meeting-274017085956892/](https://www.facebook.com/Pet-Lovers-Meeting-274017085956892/)



ミーティングの様子です。許可を取って撮影し
ています。